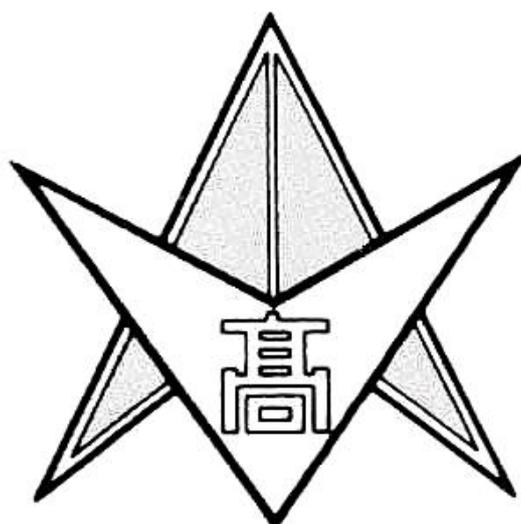


あゆみ

第58号

令和3年度



秋田県立大曲高等学校

# あゆみ

## 第58号

### 目次

#### 【巻頭言】

令和の時代の「大曲高校スタンダード」	校長 近江谷 正幸	… 2
--------------------	-----------	-----

#### 【研修記録】

教室環境における「明示的指導」の効果について	近江 豊	… 3
国語科校内研究授業記録 国語総合学習指導案	渡部 陽子	… 7
外国語科校内研究授業記録 コミュニケーション英語Ⅱ学習指導案	小林 美穂	… 11
商業科校内研究授業記録 簿記学習指導案	佐々木 優子	… 18
初任者研修を終えて	高橋 賢右	… 22
中堅教諭等資質向上研修を終えて	照井 幹夫	… 29
中堅教諭等資質向上研修を終えて	菊池 喜晴	… 33
芸術科書道におけるタブレット活用の設計	竹村 美範	… 36
Classi 活用実践報告（3年部数学科）	小田嶋 芳和	… 38

#### 【学科】

令和3年度商業科の取り組み	商業科 佐々木 優子	… 39
---------------	------------	------

#### 【トピックス】

授業互見月間について	研修部 加藤 祐毅	… 40
------------	-----------	------

表紙題字  
竹村 美範（天祐）

## 令和の時代の「大曲高校スタンダード」

校長 近江谷 正 幸

昨年の「あゆみ」で、ウイズコロナ時代の「大曲高校スタンダード」の在り方として、ペアワークやグループ活動等によらなくても一人で完結できる「主体的で深い学び」に重きを置いた実践、すなわち「頭の中のアクティブ・ラーニング」こそが本校の目指す次の高みではないか、と提案した。同時に、一人一台端末の配付や電子黒板の配備、Wi-Fi環境の整備に伴い、「オンライン授業における『大曲高校スタンダード』の在り方」が研究テーマとなるかもしれない、とも書いた。

1年が経過した現在は、実際に一人一台端末が配備され、ICTを活用できる環境が整って、廊下にタブレット保管庫が置かれるようになった。これまで本校では、多くの先生方がプロジェクターを活用していた実践があるため、より手軽に使用できる電子黒板を使って生徒に様々な資料を提示する授業が増えた。自宅での健康観察期間にタブレットを持たせ、教室での授業に自宅に参加している生徒も多くいた。何より感激したのは逆のパターンで、健康観察期間中の教員が自宅からオンラインで授業をし、教室で生徒たちがタブレットや電子黒板で授業を受ける姿だった。教員に在宅勤務は無理だと思い込んでいたが、自宅で授業ができるのであれば、在宅勤務は十分可能であると言わざるを得ない。ICTの可能性は無限大である。

一方で、タブレットを使った授業を見かける場面はあまり多くない。担当者によって温度差がある、というのが正直なところかもしれない。積極的に使用しているのは特定の一部の先生にとどまっているような印象である。かくいう自分にタブレットを使って授業をせよ、といわれても無理としか言いようがないと思う。何より、どんなことができるのか、皆目見当が付かない。特に歴史教科において、どのようにICT機器を使えば歴史的思考力を育成することができるのか、昔ながらの授業観ではなかなかイメージが湧かない。

しかし、学校教育におけるICT機器の活用は、今後避けて通ることはできない。今回のタブレット等の配備は、もともと文部科学省の進めていた「GIGAスクール構想」がコロナ禍をきっかけに前倒しとなり、我々の心の準備ができないうちに機器が配備されて、予定より早く実現しただけのことであり、本来、脆弱であった学校のICT環境を欧米諸国並みに整備することと、地域間での整備状況の格差が大きいという危機的状況を打破するためのものである。ちなみに「GIGA」はデータ容量の単位ではなく、「Global and Innovation Gateway for All」の略で、「全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉」という意味らしい。いずれ、「令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境」と文科省が言っているように、鉛筆やノートと並ぶマストアイテムとして位置付けられ、当たり前道具となるようなので、令和の時代の学校教育を担う教員には、chalk & talkに替わる必須アイテムとなるものと思われる。

今年度は環境整備の年であったため、すぐに万全な活用とまでは行かなかったが、次年度はICTの活用に本腰を入れなければならないと思う。個人の技能に頼るのではなく、学校の組織的な対応として、「ICTを活用する『大曲高校スタンダード』の在り方」に取り組む必要があるだろう。自分自身への戒めであるが、どうしたらいいのかわからないと嘆いていても先に進まない。まずはどういう活用法があり、何ができるのかについて全員で研究し、組織として情報を共有するところから始めたい。恐らくアイデア次第で何でもできる魔法の道具なのだと思う。ペアワークやグループ活動等によらず一人で完結する「主体的で深い学び」ができるツールとなり得るアイテムに違いない。これを駆使することで、「令和の時代の『大曲高校スタンダード』」がどうあるべきか見えてくるような気がする。それだけに止まらず、ICTを授業でどのように活用するのかという命題には、我々の教材観や教科観、授業観が問われているのではないかと、とも考える。その意味で教員としての真価が問われているのかもしれない。

# 教室環境における「明示的指導」の効果について

近 江 豊

## 1. 初めに

生徒を指導する際、発話やライティングの「間違い」の指摘は、教員が頭を悩ます問題である。昨今よく言われる「明示的指導(=理屈を考えさせながら学ばせる指導)」にしても「暗示的指導(=対象言語に触れ続けさせることで無意識に言語規則を身につけさせる指導)」にしても、学習者のする「誤り」をなんらかの形で好ましい形に修正しようとする方策であることには違いがない。しかし、指導の仕方によっては、正の動機付け(motivation)ではなく、やる気を削ぐこと(demotivation)につながることもあるので注意を要する。

コロナ禍のせいで、オンライン授業の割合が増えている。個別あるいは少人数指導という形ででも学習環境を保証しようという努力は貴重である。しかし、そういう状況にあるからこそ、普段は意識していない集団での対面授業を行うときのありがたさ・長所を再認識することになる。

この稿では、学習者間の教室環境での「明示的指導」が持つ効果(「問題意識の共有」)について述べてみたい。筆者の経験則に基づいた推測が多く、客観的な分析が不足している点は認めざるを得ないが、同じような経験をなさって同意していただける人も多いのではないかな。

集団内での明示的指示に期待できる効果にはどのようなものもあるのかについても、探ってみよう。

## 2. 試み

授業中、学習者に自分の「誤り(mistake)」について検討させる機会を設け、「誤り修正」の手がかりとしたい。教室環境で検証したい「仮説」は以下の通り。

**仮説： 教室環境での「明示的指示」は、個人に対する「明示的指示」よりも効果的である。**

### (1) ライティング：

生徒に配付した課題を回収し個別に添削して、間違いを指摘して返却するプロセスでは、学習者は自分がした誤りを教員がどう添削したのかにある程度の注意は向けるだろう。ただし、自分がしたミスが他の学習者もしているミスなのかどうかの意識は、他人との比較ができない以上なかなか働かない。それは、誤りが個人の一過性の mistake か、それともある層の学習者の多くが共有しがちな集団的 error なのかについて意識しにくい、ということでもある。

本年度、筆者は1年生32~35名のクラスを5つ担当している。和文英訳や英作文の作業では、毎回5~10名に共通する文法・語法上の誤りを発見する。ここで、教室内で返却する時に、クラスの学習者全体に対し、何も言わないで済みますか、多少時間を割いても「誤答例の紹介と分析」を教室環境内で行うかどうかで、大きな違いが生じると考えている。「自分のしたミスを他の人がしていないか。あるいは自分だけなのか」は、モチベーションの高い学習者にとっては、関心事のはずである。

筆者の英作文・和文英訳指導の手順・ルーチンは以下のようなものである。

配付 ☞ 日本語構造解説・英訳個人作業 ☞ 生徒間ペアワークなどによる修正作業  
☞ 板書によるモデル提示・生徒個人による訂正 ☞ ハンドアウト回収 ☞ 筆者による点検  
☞ 返却時の解説・フィードバック

「返却時の解説・フィードバック」に注意していただきたい。この時点で全体に対して「明示的指示」を行うことは、個人に対する指摘で終わらせるよりも長期的な効果を持つと思うが、いかがであろうか。

### (2) 音読： One-Sentence-Reading Relay の導入

音読における個別の「明示的指導」は、一定の効果を持つ。ただし、個人の発音・アクセントの誤り修正は「こんなミスをしているのは自分だけだったのか」と他の学習者と比較する機会が与えられたと

き、つまり集団学習という環境で他の学習者の前で指摘されたときに、より高い効果を持つのではないか。皆の中で訂正されるというのは、多少の当惑・恥ずかしさ (**embarrassment**) を伴う。しかし、集団の中で恥ずかしい思いをしたときの記憶は、長期間残るものである。

また、教室内で学習者が全員で行うコーラスリーディング (以下 CR) の効果は、私は疑問視している。一人の教員が個別の発音・アクセント・イントネーションの誤りの修正を 30 名前後同時に行えることはありえない。CR では個人が行う誤りは、他の学習者の音声にかき消され「埋没」するのが関の山だからである。CR で終始すると、「我々の読みは評価されない。手を抜いてもチェックされにくい」という生徒の気持ちしか引き起こさない。かといって、30 人以上いるクラスで数名に音読させるのも時間のロスになりやすい。では、どうすればよいのだろうか。

### One-Sentence-Reading Relay の試み

今教室内で実施しているのは、One-Sentence-Reading Relay の試みである。下にモデルを示す。

モデル：

32 名教室では、音読のペア数は 16 となる。各レッスンは PART が 4 つであり、CD 読みのスピードに近づける読みを目指すのであれば時間計測も必要になってくる。

ペアによる読みの練習 ⇨ 教壇からの縦一列指名 ⇨ 最前 (あるいは最後尾) の生徒から始まる一文音読 ⇨ 教員による発音の誤り把握・明示的指摘・他の生徒による修正 ⇨ 個人による訂正

教室環境で学習者が緊張するのは、どんなときだろう。「次は自分の番だと」という状況が設定されたときではないだろうか。指名される可能性が高ければ高いほど、緊張度も高まる。

さらにいえば、教員に訂正される場合と他の多くの学習者から訂正される場合とでは、どちらがより効果的だろうか。人前で修正されることは若干の **embarrassment** を伴うことが多い。「明示的指摘」が長期的効果を持つのは、このような時だと私は考える。

(3) 読解： 「客観タイプ」「記述タイプ」のハンドアウト併用

授業でカバーする英文範囲については、予習を課しておく。つまり、英文の大意・概略はあらかじめ押さえておくことを授業の前提とする。

取り組み例：

1) 該当英文を載せた問題数 4~5 の「客観問題」のハンドアウトに 5 分程度取り組ませる。(資料：ハンドアウト 1 参照。) ノート・教科書の使用は認めない。また、用意するハンドアウトの設問はすべてオリジナルである。作成ごとに本校 ALT のチェックを受けることにしている。

[資料：ハンドアウト 1]

KEIRINKAN Element I Lesson 8 Part 3 & Part 4           R No.          Name          

8 When the fourth speaker, Ota Yuki, made his presentation, he had two important roles. One was to overcome Japan's weak point—less support from the local people than the other two cities. He talked about the parade for the Japanese athletes who took part in the 2012 London Olympics. Five hundred thousand people gathered in order to see the parade, even though it was on a weekday. Ota showed that Japanese people support the Olympic Games just as strongly as people in the other two countries.

9 The other was to make the audience imagine the 2020 Tokyo Olympics. Ota began his speech with "Imagine living in the heart of that city," with a picture of the ocean the athletes would see from their rooms. He repeated "imagine" three times with new images on the screen. Here, he used the power of three. It is said that it is effective to show three points or three examples in a presentation. With such impressive pictures and videos, Ota successfully created the image of the

2020 Tokyo Olympics in the minds of the audience.

10 Their presentations made the difference, and Tokyo was chosen as the host city for the 2020 Olympics. The keys to winning the competition were not only their passion but also their communication strategies—such as practicing hard, creating key words, showing evidence, and using the power of three. If Nick hadn't given his advice, their presentations would not have been as successful. Their dream came true, and we will be able to enjoy the Olympic Games in Japan in 2020. This is the power of presentation.

Q1 What was one of Ota Yuki's roles in his presentations?

1. To demonstrate Japanese local support is weak.
2. To demonstrate Japanese local support is stronger than that in Istanbul.
3. To demonstrate Japanese local support is good enough.
4. To demonstrate Japanese local support is the best.

Q2 What can you guess Ota wanted to say in his presentation? You can choose more than one.

1. Japanese people will be positive.
2. Japanese people will be reluctant.
3. Japanese people will be helpful.
4. Japanese people will be negative.

Q3 What was the other of Ota Yuki's roles in his presentations?

1. To imagine the 2020 Olympics himself
2. To prepare the situation for the audience to have the image of the 2020 Olympics
3. To imagine the number of three himself
4. To prepare the nice ocean and the buildings for the audience

Q4 Translate *If Nick hadn't given his advice, their presentations would not have been as successful.* into Japanese and *paraphrase* this sentence without using *the subjunctive*.

2) 1)の答え合わせ段階で、誤答者数・誤答率をその場で概算で出しておく。挙手数で確認できる。

(例: Q2の正解者 12名 クラス人数 32名 ⇨ 正答率 3割) 黒板に記録しておけばよい。

3) 誤答率が最も高い問題にかかわる英文が予習段階で誤読を招いたという予測が可能である。ここで誤答率が高かった理由を生徒と一緒に考える機会を設けると、生徒による「明示的学習」を促進することができると思う。ただし、英文読解そのものに問題はなくとも、設問文・選択肢が誤答を招いた可能性を除去できないので、各場面での判断には注意が必要である。

4) 答え合わせ終了後、誤読関連の英文箇所を焦点を当てて英文解釈を行う。同時にハンドアウト2(基本的に記述問題を用意する。)に取り組みせ、英文の「骨組み」に注意させる。

[資料: ハンドアウト2] (資料1と問題文は同一なので省略。)

Q1 下線部分 two important roles を説明する最適な英文を2つみつけ、それぞれを日本語にきなさい。

Q2 Tokyoがオリンピック競技の開催地争いに勝てた要因を、大きく2つ挙げ、さらに2つめの要因の具体例を4つ挙げなさい。

資料1・2を併用すると、教員が「難しいはずだ」と判断する箇所と生徒が陥る誤読箇所は、必ずしも一致しないことがわかる。指導時の教員の「ここは簡単だろうという思い込み」を修正する機会にもなる。

### 3. 手ごたえ

「間違いは直すべきである。ただし、恥をかかせない形で。」という気持ちは、生徒に伝わっていると思う。「ほら、ここは違う。皆で正しい形を示そう。」という教員からのアプローチとそれに応じる生徒の雰囲気は、教室で定着してきている。

ただし、教室内で学習者個人が犯す言語活動上の誤りを指摘することは塩梅が難しい。学習者が多少の **embarrassment** を覚えるのは仕方が無いとしても **shame** (恥) を与えてはいけないからだ。それは冒頭で述べた **demotivation** しかもたらさない。筆者が担当する5クラスでは生徒に対して学習者のミスやエラーをできるだけ建設的に捉えるように指導している。

### 4. まとめ

「外国語学習において、学習者個人に行われた明示的指示効果は長続きしない」というのが現在外国語学習理論における主流の考えらしい。ただし、それをそのまま受け入れることは、どうにも口惜しい。明示的指示を行うことこそが我々語学教員の仕事だからである。「何とか効果を長続きさせる方策はないか」を模索しているが、今回挙げたのは、その数例である。

「明示的指示」は、対個人で完結させるより学習者集団に向けて行う方が、あるいはその二つを組み合わせれば効果が高いというのが、この仮説の主旨である。学習者が自らの間違いを意識しそれを長期間にわたって維持するための方策にはどのようなものがあるのだろうかと考えて、実践例をいくつか紹介した。ただし、現時点では統制群と実験群との比較に基づくものではなく、あくまでも仮説に留まる。今後色々な形で、検証を進めていきたい。

# 国語科 「国語総合」 学習指導案

日 時：令和3年10月19日（火）5校時

授 業 者：渡部 陽子

対 象：14R 32名

使用教科書：『新探求国語総合 古文編』（桐原書店）

1 単元名 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む

## 2 単元の目標

(1) 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとしている。【関心・意欲・態度】

(2) 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。【読む能力】

(「C読むこと」の(1)のア)

(3) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色および言語の役割などを理解する。【知識・理解】

(〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のイ(ア))

3 取り上げる教材 『伊勢物語』『芥川』

## 4 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意し、情景や心情を的確に読み取ろうとしている。	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意し、情景や心情を的確に読み取っている。	歌物語における和歌の修辞や、語句の用い方について理解している。

## 5 生徒と単元

### (1) 教材観

『伊勢物語』は日本の古典文学を代表する歌物語である。「芥川」は男が高貴な女性を思い慕って盗み出す、悲劇に終わる物語であり、男の行動や心情には読み手の感情に訴える普遍的なものがある。作中の和歌に込められた登場人物の心情を捉えることで、生徒自身の感受性が涵養されるように指導したい。

### (2) 生徒観

普通科32名のクラスで、ほぼ全員が大学への進学を希望している。真面目な生徒が多く、それぞれが課題に取り組むことができるクラスである。一方で、大人しい生徒が多いため、全体への発表やグループ活動には少し消極的な面もある。ICT機器で活動を支援し、活発なグループ協議を促したい。

### (3) 指導観

生徒たちはこれまで「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』)、「大江山」(『十訓抄』)、「ある人、弓射ることを習ふに」(『徒然草』)を学習している。また、用言の活用と助動詞についてもすでに学習している。文法的説明に慣れてきてはいるが、口語訳に自信が無く、内容の吟味までは至っていない生徒も多い。和歌の意味を読み取らせることで、古典文学を読み味わう姿勢を学ばせたい。

## 6 単元の指導計画(全3時間)

- ・文学史、現代語訳・・・1時間
- ・和歌の解釈、主題の把握・・・1時間(本時)
- ・まとめ・・・1時間

## 7 本時の計画(本時 2/3)

(1) 本時の目標

女の人物像と男の心理推移を中心に内容を押さえ、歌物語の特質と主題を理解する。

(2) 学習過程

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準 (評価の方法)
導入 (5分)	1 本時の目標と流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">男の心情の推移を理解し、和歌に込められた男の心情を考えよう。</div>	全体	・1時間の流れがイメージできるように明示する。	
展開 (40分)	2 音読する。(斉読) (5分)	全体	・歴史的仮名遣いや漢字の読みに注意させる。	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情推移を押さえ、歌物語における和歌の意味や主題を理解している。【読む能力】</li> </ul> <p><b>【評価の方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・ワークシート</li> <li>・スプレッドシート</li> </ul> </div>
	3 ワークシートを使用し、女の人物像と男の心情の推移について各自で考える。 (5分)	個	・場面の状況から男と女の立場や心情を考えさせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問：なぜ物語の最後に和歌が詠まれたのか？</div>			
	4 4～5人のグループになり、男の心情の変化を踏まえた上で、なぜ物語の最後に和歌が詠まれたのか。グループの意見をまとめる。 (10分)	グループ	・タブレットを使用し、各班の意見をスプレッドシートに記入させる。 ・和歌を最後部分に入れることで何が強調されるかを考えさせる。	
	5 話し合った意見を全体に発表する。 (10分)	全体	・電子黒板で各グループの意見を共有する。	
	6 発表や話し合いを踏まえ、物語の主題をまとめる。(10分)	個	・全体の意見を踏まえて、まとめさせる。	
まとめ (5分)	7 本時の活動について振り返る。	個	・タブレットで入力させる。	

「芥川」ワークシート

男の心情の推移を理解し、和歌に込められた男の心情を考えよう。

### ○冒頭三行でわかる「女」の人物像

- ・「え得まじかりける」
- ・「からうじて」
- ・「草の上に置きたりける露を、  
『かれは何ぞ。』となむ男に問ひける。」

この女性ほ…

### ○「男」の心情推移

事実	心理
①長年にわたる求婚	
②「女」を盗み出す	
③「女」の問いに答えず	
④「女」を倉に入れ、武装して警護する。	
⑤「早く夜が明けてほしい」	
⑥「女」の喪失 地団駄を踏んで泣く	

(メモ欄)

### ○なぜ物語の最後に和歌が詠まれたのか。

### ○物語の主題

# 国語分科会

日 時 令和3年10月19日(火) 14:40~15:20

参加者 高校教育課 櫻田 瑞子 指導主事  
国 語 科 猿橋 知恵(司会)、藺藤 章、渡部 陽子(授業者)、小川 康、斎藤 卓哉、  
斎藤 竜二(記録)  
他 教 科 加藤 清秀、佐藤 賢輝、柴田 未来、戸嶋 あきは、竹村 美範、  
佐々木 悠華、藤田 綾子、小澤 裕子、山本 力、石川 忍

## 1 授業者より

歌物語の特質と、「芥川」の主題を理解させることを目的として授業を行った。心情の推移について考えさせる活動では、心情の盛り上がりが見え始めるまでの伏線があってそれが最後に回収されるということを感じさせたかったが、生徒任せに意見を出させるだけになってしまった。主題については、時間がなくまとめきれなかった。ICTの活用にも挑んだ授業だったが、紙のほうが良かった場面もあったのではないかと思うので、意見をいただきたい。

## 2 参観者より

- 【小 川】古典の授業は文法に終止してしまいがちだが、心情について考える楽しい授業だった。ICT活用の有効性も感じた。
- 【藺 藤】ICT機器を使い、生徒に深く考えさせる楽しい授業だった。「芥川」は印象に残りやすい作品だが、より残りやすくなる授業であった。
- 【斎藤卓】電子黒板とタブレットを使うことで、各グループの意見を共有しやすく、ICTの強みが生かされた授業だった。電子黒板の字をもっと拡大すると見やすかったと思う。
- 【斎藤竜】心情の推移を考えることにより、最後の「男」の落胆ぶりがより際立つため、非常に有効な学習活動だった。
- 【猿 橋】タブレットに入力することで、すぐに共有できるのがよい。心情を選択式にすることで時間の短縮につながっていた。
- 【藤 田】冒頭と「女」の人物像についてはもっとコンパクトにしてもよい。和歌について掘り下げる前に和歌の意味を振り返ると良かったと思う。
- 【戸 嶋】心情を自由に考えた後に、選択肢から選ぶことに抵抗を感じた。自分が考えたものと少しずれていても選ばなければいけない。それでも選ぶ力も必要だと思うが。
- 【竹 村】スプレッドシートを使う必然性のある授業だった。字に先生の人柄がよく表れていた。

## 3 指導助言(櫻田瑞子指導主事より)

生徒が楽しそうで、先生も生き生きとしていた。良かった点は4つある。

- ・生徒の発表態度が立派である。必ず根拠も説明していた。日頃の指導の賜物である。
- ・ICT活用は使ってみないとわからないことが多い。よい実践例を見せていただいた。
- ・単元の流れの組み立てがよい。知識を身に付け、その上で思考・判断するという流れができており、新学習指導要領にも沿っている。
- ・学習目標に到達するような発問になっていた。発問に工夫が見られた。

歌物語の特質の把握と主題の把握という2つの目標が授業者の中にはあった。それにより着地点がぼやけてしまった。授業者が描く目標と生徒に示す本時の目標の整合性を図ることが重要である。

# 外国語科「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時：令和3年10月19日（火）5校時  
場 所：23R教室  
対 象：23R39名（男子16女子23）  
授 業 者：小林 美穂 Hayley Gerlach  
教 科 書：Revised ELEMENT English  
Communication II（啓林館）

## 1 単元名 Lesson 6 Caddy for Life

### 2 単元の目標

- (1) ブルースとワトソンがともに過ごした日々と彼らの友情について理解する。
- (2) ブルースが最後までワトソンのキャディーを務め続けたのはなぜか、またワトソンはそれにどのような応えたかについて考える。
- (3) 独立分詞構文、関係副詞の非限定用法を理解し、文を作ることができる。

### 3 単元とCAN-DO形式での学習到達目標との関連

- ・物語やスピーチ原稿など強弱をつけて音読できる。【2年2学期 読むこと】
- ・既習の文法事項を用いて、興味関心のある事柄について書くことができる。

【2年1学期 書くこと】

### 4 単元観

本単元はキャディーのブルース・エドワーズとプロゴルファーのトム・ワトソンとの「友情」がテーマとなっている。ブルースは ALS と診断され、病気が進行した後もワトソンのキャディーを務め続け、ワトソンは ALS についてもっと研究が進められるよう基金の必要性を訴えた。そのお互いを思いやる関係について、自分の身近な人との関わりに関連させながら考えさせたい。言語材料は独立分詞構文と関係副詞の非限定用法が扱われており、実際に使用しながら用法を理解させたい。

### 5 生徒観

英語の学習に対しては比較的意欲的な生徒が多く、ペアワークにも積極的に取り組んでいる。内容を理解することはおおむねできているが、中には英語に苦手意識をもち、理解に困難を感じている生徒もいる。学んだ語彙や文法を活用し、自分の考えを表現する場面を多く作っていきたい。

### 6 単元計画（総時間10時間）

- 1、2時間目・・・Introduction, Part1（内容把握、音読）
- 3、4時間目・・・Part2（内容把握、音読）
- 5、6時間目・・・Part3（内容把握、音読）
- 7、8時間目・・・Part4（内容把握、音読）
- 9時間目・・・Comprehension【本時9/10】
- 10時間目・・・Vocabulary, Grammar and Structure

## 7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
ペア活動やグループ活動に積極的に参加し、相手の考えを聞いたり自分の考えを主体的に話したりしている。	聞いたり読んだりした内容を踏まえ、自分の考えを相手に伝えることができる。	本文の概要や要点を把握し、二人の友情について理解することができる。	聞いたり読んだりした内容について、自分の考えを述べるための表現を理解している。

## 8 本時の学習

### (1) 目標

ブルースとワトソンの友情について理解した上で、自分の友人について英語で表現し、相手に伝えることができる。

### (2) 指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 7分	・ブルースとワトソンがそれぞれお互いのためにしたことを本文から見つける。	・それぞれの行動がわかる板書をする。	
展開 38分	<p>本時の目標を掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     自分の友人について具体的なエピソードを交えて英語で紹介しよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTによるデモンストレーション</li> <li>・自分の友人について英語で書く。</li> <li>・3～4人のグループになり、自分の友人についてそれぞれ紹介する。聞いている生徒は紹介後、質問する。</li> <li>・グループの代表を決める。</li> <li>・代表数名がクラスで発表する。発表後は生徒またはALTからの質問を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなエピソードが盛り込まれているかを確認させる。</li> <li>・机間巡視をし、適宜アドバイスをする。</li> <li>・評価票を配付し、評価を記入させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     [評価] 机間巡視し評価する。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より具体的なエピソードを盛り込んでいたものを選ばせる。</li> </ul>	B
まとめ 5分	・本時の振り返りをする (自己評価シートの記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の発表で言いたかったが言えなかった表現を確認する。</li> <li>・他の生徒の発表を聞いて、感じたことを書く。</li> </ul>	

## Lesson 6 Caddy for Life①

**Goal:** 自分の友人について具体的なエピソードを交えて英語で紹介しよう。

○紹介する友人を1人決めよう。校内の友人でも校外の友人でもよいです。

○紹介文に盛り込む内容を決めよう。

○上記のことを英語で紹介するために、必要と思われる英語の表現を調べておこう。

◇参考：性格を表す語

kind (親切的な)、gentle (優しい)、warm-hearted (心の温かい)、friendly (親しみやすい)、cheerful (明るい)、funny (おもしろい)、active (積極的な)、careful (慎重な・注意深い)、generous (寛大な・気前がいい)、easy-going (のんきな)、sensitive (神経質な)、stubborn (頑固な)、positive (前向きな)、frank (率直な・きさくな)、talkative (おしゃべりな)、shy (恥ずかしがり屋の)、quiet (おとなしい)、honest (正直な)、polite (礼儀正しい)、diligent/hardworking (勤勉な)、modest (謙虚な)、patient (我慢強い)、punctual (時間を守る)



**4 Presentation** グループの他のメンバーの発表を聞いて、評価しよう。

Members	Evaluation 3: Excellent 2: Good 1: Fair			Total
	Volume (声の大きさ)	Eye Contact (アイコンタクト)	How concrete the episode is (エピソードの具体性)	
1	3 2 1	3 2 1	3 2 1	
2	3 2 1	3 2 1	3 2 1	
3	3 2 1	3 2 1	3 2 1	
4	3 2 1	3 2 1	3 2 1	

**5 Self-Evaluation** 今日の授業について振り返ろう。

A:よくできた B:まずまずできた C:あまりできなかった

1. 具体的なエピソードを交えて友人の紹介文を作ることができた。 [ A B C ]

2. 声の大きさや視線に注意して、発表することができた。 [ A B C ]

3. 他のメンバーの発表に対して、質問したり気づいたことを伝えたりすることができた。

[ A B C ]

4. 今回の紹介文でうまく表現できなかったことや他の人の発表を聞いて感じたことを日本語で書こう。

---



---



---



---

## 英語分科会

令和3年10月19日(水)

参加者 秋田南高等学校 教育専門監 深沢 志保

英語科 小松 千明(司会者) 小林 美穂(授業者) ヘイリー・ガーラック(授業者)  
近江 豊 村井 稔子 田村 英子 津谷 勝之(記録)

他教科 泉 広宣(地歴) 高橋 史(地歴) 加藤 祐毅(理科) 小田嶋 芳和(数学)  
小林 朗子(数学)

### 授業者より

小林 普段まとまった内容を書かせることがなかなかできていなかったのので、「自分の友人について英語で表現し、相手に伝える」ことが目標であり、前時に考えておくよう指示してはいたが、友人と助け合う経験などあまりなかったかもしれないのに、エピソードを交えてうまく表現できるか不安だった。前時にモデルを見せて少し作業させておいてもよかったかもしれない。タイムマネジメントもミスしたが、グループでの活動は日本語も混ざっていたものの、積極的であった。生徒のコメントには「語彙や表現を増やしたい」といったものが多かった。生徒の声を生かし、これからも書かせる活動を増やしていきたい。

ヘイリー 生徒は緊張していたのか、いつもよりおとなしかった。いつもはもう少し活発である。最初はメモをとらずに聞く、次にメモをとりながら、その後 discussion をして share するという流れが理想的。中には書くことに難がある生徒もいるが、いろいろと質問している様子がよかった。

### 参観者より(英語科)

村井 「書く」作業は個人差が大きい。できない生徒の誘導のしかた、全員が達成感を感じられる工夫が必要。

田村 ライティングのハードルは、どうやって内容をイメージさせるかと、ボキャブラリーの問題。ヘイリー先生の例がよかった。エピソード+どう感じたか、といったような流れや、こんな表現を入れるといいよと示すなどの工夫が必要。ALT のアドバイスが有効なので、もっと使ってもいいと思う。

小松 ICT 機器の使用に不安があるのでとても参考になった。緊張している様子ではあるが、いい雰囲気だった。どこかの時点でリピートさせるなど声を出させる場面があればよかったかも。

近江 質問①Lesson ごとに実施している？

—していません。

②書いたものは最終的にどうする？

—評価に活用したい。

③accuracy はチェックする？

—内容はチェックするが深くは突っ込まない。ヘイリー先生にコメントを書いてもらう。

田村 contents や fluency を重視する。文法は部分的に注意する。(時制は絶対間違えない、感情を表す表現はしっかり、など)

村井 内容は相手に伝わるものなのかが大事。どういうスタンスで持っていったらいいか悩んでいる。

### 参観者より(他教科)

小田嶋 画面共有やタイマーなど、機器の利用はいろいろ工夫できる。HR 日誌に英作文を書かせている。みんなで共有しながら英語力をもっとつけてほしいと考えている。

小林朗 クラス全体からは返ってこないが、グループ活動では積極的な反応があるクラス。以前習ったことを覚えていない生徒が多い印象。

泉 赤ペン青ペンの作業は前時にやってもよかったかも。作文に入るとヘイリー先生の例がよかったので書きやすかったようだ。書かせるのが目的なら事前のガイダンスやガイドラインは必要だと思う。俳句の夏井先生のような添削指導ができれば面白い。グループ学習はメンバーの組

み合わせが難しいと感じている。

加藤 発表させてみるとなかなかいいクラスである。動機付けの難しさと、先生の工夫が感じられた。振り返りにあった「言いたいことが言えなかった表現」は次につながると思う。

高橋 基礎力が大変だという中での作文の授業は大変だと思う。ペアやグループによって「何が深まるか」を意識して取り組ませることが必要。生徒同士の評価も、具体的に何をどう評価するか最初に促しておいてはどうか。

深沢教育専門監より

- ・やさしくおだやかな雰囲気先生と、素直で前向きな生徒という印象を受けた。
- ・生徒たちが紙の辞書（しかも英和辞典）を使用していたのが印象的であった。
- ・プリントは生徒をサポートするもの。
- ・個人差があるが、グループ内でのお互いの question や interaction の中でやりとりがあって教え合っていた。
- ・内容理解で提示した語が作文にもつながった。
- ・ヘイリー先生の例を表示したとき、生徒にどんどん質問を投げかければよかった。
- ・指示を明確に
- ・教え方が丁寧で安心して勉強できる環境であった。

# 商業科「簿記」学習指導案

日 時 令和3年10月19日(火) 5校時  
 対 象 16R(商業科) 35名  
 教科書 東京法令出版 簿記 新訂版  
 授業者 佐々木 優子

## 1 単元名 第7編 決算整理

### 2 単元の目標

- (1) 決算整理の意味を把握し、決算整理事項の処理ができる。
- (2) 8けた精算表の意味を理解し作成できる。
- (3) 損益計算書と貸借対照表の意味を理解し作成できる。

### 3 単元観

本単元は、簿記の目的である経営成績と財政状態を明らかにする報告書作成のために必要な決算整理について学ぶ。生徒にとっては、金銭の増減を伴わない決算整理事項はイメージしにくい分野である。企業の経営内容を判断し、将来の経営方針を立てるため正しく当期の純損益を計算する大事な資料作成の手続きであることを理解させ、実社会において活用できる能力を育成したい。

### 4 生徒観

16Rは商業科1年生のクラスであり、男子11名、女子24名の35名である。進路希望調査によると、進学が多くが経済系の四年制大学を、就職が多くが公務員を希望している。授業に臨む姿勢は非常によく、問題演習などの課題へ真面目に取り組んでおり、簿記の学習に対する意欲は高い。一方、数名だが簿記の専門用語や仕組みについての理解に困難を感じている生徒もいる。そのため、グループやペアでお互いにサポートすることで、授業時間内での理解や習得に努めている。問題や課題を完成するだけでなく、数値や金額の意味をしっかりと理解させて実社会で活用できる能力を身に付けさせたい。

### 5 指導計画

#### 第7編 決算整理

- (1) 商品に関する決算整理 (3時間)
- (2) 貸し倒れ、減価償却 (2時間)
- (3) 費用、収益の繰り延べ、見越し (4時間)
- (4) 8けた精算表の作成 (5時間) (本時5/5)
- (5) 損益計算書・貸借対照表 (5時間)

### 6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
決算整理を含んだ決算について関心をもち、自ら進んで調べたり質問したりしながら、決算に関する基礎的・基本的な知識と技術を意欲的に身に付けようとしている。	決算整理を含んだ決算について知識と技術を深め、決算の仕方を適切に判断できる。またその内容を精算表や財務諸表を作成することによって表現することができる。	決算整理事項の意味を理解し、売上原価の計算・貸倒の見積もり・固定資産の減価償却・費用収益の繰り延べ見越しに関する決算の仕方について説明することができる。	決算整理を含んだ決算について基礎的・基本的な知識を習得し、売上原価の計算・貸倒の見積もり・固定資産の減価償却・費用収益の繰り延べ見越しなどを正確に理解している。

7 本時の学習

(1) 本時の目標 決算整理事項と当期純損益の関係を理解する。

(2) 学習過程 A：関心・意欲・態度 B：思考・判断・表現 C：技能 D：知識・理解

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	<p>1 当期純損益へ影響するのは何かを考える。</p> <p>2 収益、費用の増減と当期純損益の増減関係をペアで確認後、全員で確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益、費用を図によりイメージしやすくする。</li> <li>・収益と費用の純損益との関係を確認する。</li> </ul>	
展開 30分	<p><b>当期の純損益への影響を考えて決算整理仕訳をしよう。</b></p> <p>3 座席ごとに片方は利益が減少する、片方は利益が増加する数値を選ぶ。隣同士ペアになり、説明や確認をしながら問題に取り組む。</p> <p>4 精算表で当期純損益を計算する</p> <p>5 タブレット入力で答え合わせをする。</p> <p>※ 早くできた生徒は、既存の学習内容からその他の決算整理事項をタブレットに入力して送信する。</p> <p><b>経営不振が心配される決算整理を見破ろう！</b></p> <p>6 Jamboard に個人またはペアで気付いたことを入力させ、その内容をクラスで共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classroom によりヒントを与える。</li> <li>・正解者数や進捗状況によって解説を加える。</li> <li>・金銭の収支がなくても決算整理事項によって純損益に差がでるため、決算整理事項を正しく行うことの重要性を理解させる。</li> <li>・決算整理事項の意味を考えさせ、答えを導き出す。</li> </ul>	<p>興味・関心をもって協力して取り組んでいる。 (A)</p> <p>正しく精算表を作成できる。 (B)</p>
まとめ 10分	<p>7 決算整理事項について当期純損益への増減関係をタブレットを用いた小テストで確認し、質問事項や理解したことを入力する。</p>		<p>決算整理事項の純損益への影響を正しく判断できる。 (B)</p>

## 研究授業 教科別協議会の記録

実施日	R3 10月19日(火)	教科・科目・単元	商業・簿記・精算表
主題(題材)	簿記 精算表の作成 決算整理事項と当期の純損益の関係を理解する。		
授業、研究会 参観者	高校教育課 大越 欽也 指導主事 本校職員(伊藤教頭、中村、糸井、藤田理、藤本、伊藤淳、佐々木、鈴木、高橋晃、照井、菊池、伊藤岳、竹村紀、高橋賢)		
<p>1. 授業者の感想・反省</p> <p>【佐々木優子】</p> <p>新しい生活様式を踏まえた電子黒板、タブレットといったICT活用と主体的・対話的で深い学びのための授業展開という2つの視点から研究授業をした。良かった点は、classroomでの指示を生徒へわかりやすいように工夫した。また、フォームへの生徒氏名入力は4桁の数字にし、他教科で使用しているものと共用できるものとした。タブレットを使用することで生徒の理解度がすぐ把握できることやフィードバックを活用することで個々のペースで苦手分野の学び直しができること、確認テストの集計が瞬時にできることなどが利点であると感じた。改善点としてはタブレットを見ている時は、生徒の表情が見えづらいために説明をしっかりと聞いているかわかりづらいことがあげられる。対面授業での良さを維持しつつ、ICTを活用する場面と使用しない場面のメリハリが大切であると感じた。</p> <p>2. 参観者の感想・意見</p> <p>【藤田理】</p> <p>ICT活用が素晴らしかった。その中でもJamboardの活用で生徒の意見を共有できていたところが良かった。本校の生徒は発表となると、発表に抵抗ある生徒がいて、なかなか意見が出ない中、共有できるツールの活用は大変参考になった。また、対面授業の良さについて述べられていたが、ICT活用であっても対面授業の良さはなくならないと感じた。</p> <p>【菊池】</p> <p>ICT活用が大変参考になった。Jamboardの活用、確認テストへの活用は授業の時間短縮に非常に有効なツールであると感じた。</p> <p>【照井】</p> <p>ICT活用が大変参考になった。Jamboardを生徒が利用する際のルールが適切で、付箋の色の準備や指示がしっかりされていた。また、確認テストが再編集できないことも緊張感を持って取り組むのに有効であったと思う。</p> <p>【伊藤淳】</p> <p>タブレットや電子黒板の活用が適切で有効性が十分に理解できる授業であった。</p> <p>【高橋賢】</p> <p>ICT活用が大変参考になった。補助プリントや準備が大変だったと思う。本時の目標に対するまとめがあれば、さらにまとまりが良くなったのではないかな。</p> <p>【竹村紀】</p> <p>ICT活用が大変参考になった。この後も、引き続き活用してもらい、生徒の理解度がどのように変化したのかを検証してほしい。</p> <p>【伊藤岳】</p> <p>ICT活用が有効に行われた授業であった。準備にかなりの時間をかけられたと推測できる。</p>			

画面共有の方法として、Jamboard から PDF にすることも可能である。今回は classroom への投稿であったが、授業用のフォルダをドライブに作って生徒と共有する方法もある。

【中村】

タブレット等の使用方法が参考になった。自分の授業でも導入できることを取り入れたい。

【鈴木】

導入時の新聞記事の活用も興味関心付けに有効であった。Jamboard に付箋で意見を書くことは思っていることを表現しやすい手段であると感じた。ICT活用の場面、説明を聞く場面のメリハリがしっかりされていた。

【藤本】

今後、学年や教科間でタブレット上への感想や意見を書き込みを統一形式にすることで生徒も戸惑いなく操作し入力しやすくなると感じた。

【高橋晃】

知識や技能を習得する面が強い精算表の単元で、しっかりと主体的・対話的な授業を展開されていた。決算整理事項の指定値の違いに気付き、意見をまとめさせていた。

【伊藤教頭】

1カ月前課題の新しい生活様式を踏まえての授業展開をしっかりとされていた研究授業であった。タブレット、電子黒板のツールを効果的に授業へ組み入れ、生徒に関心を持たせ、効果的に生徒を動かした授業展開であった。

### 3. 指導助言 大越指導主事

話し合いが多く生徒が主体的・対話的な授業でありました。タブレットの活用とそれに対する慣れを感じられた授業でした。Classroom、Jamboard、フォームを積極的に活用し、生徒の感想もタブレットで集約するなど、1人1台端末を有効に活用していました。テキストマイニングという手段もありますので、伊藤教頭先生から教えてもらってください。

教科商業の中で簿記は重要な科目です。適正な財務諸表を作成することができること、考察や分析ができることは企業で求められるものです。ICT活用について身近に触れることは会計ソフトウェアに対応する力も育成しているといえます。社会では良好な人間関係育成の能力も問われます。実践的・体験的活動を通して、コミュニケーション能力を高めてほしいと思います。

# 初任者研修を終えて

地理歴史・公民科 高橋 賢右

## 【1】始めに

令和3年3月、前任校の秋田県立横手高等学校に連絡をいただき、近江谷正幸校長先生より本校に赴任することを内示された。講師を13年経験し、ようやく教員採用試験に合格させてもらい、念願かなっての採用であった。そして、教諭としての教員生活が始まってから、あっという間に1年が終わろうとしている。ここで、初任者研修について振り返ることとする。

## 【2】初任者研修を振り返って

### <1>校内研修（一般研修）について

近江谷校長先生、下橋教頭先生、伊藤教頭先生、伊藤事務長を初めとする多くの先生方に、お忙しい中でお時間を割いていただき、研修を受けさせてもらった。教育公務員としての服務や心構え、教育法規、危機管理、諸表簿の点検、学校経営、学級経営など、多くの内容について丁寧に教えていただき、何となく分かったような気がしていたことも、再確認できた。一般研修で学んだことは、今後、大切になることばかりなので、しっかりと復習し、教員の仕事に取り組んでいきたい。

### <2>校内研修（教科研修）について

指導教員である戸嶋先生を初め、地理歴史科の先生方には大変ご迷惑をおかけしてしまった。さらに、研究授業には他教科の先生方にも参観していただき、たくさんのご意見をいただくことができた。他教科の視点からの的確なアドバイスは、これからの日々の授業の中で参考としていきたい。また、近江谷校長先生には専門科目が同じということもあり、一般研修のみならず教科研修においても指導案の作成等でご助言をいただいた。本当に、ありがとうございます。

講師経験の中で身につけてきたものもあったが、年間指導計画の作成、定期考査問題の作成、教材研究の仕方、導入の工夫、評価の方法などの研修を受けられて、本当によかったと感じている。採用されなければ受けられなかったことなので、ここで学んだことを今後しっかりと生かしていきたい。

### <3>校外研修（総合教育センターでの研修）について

新型コロナウイルス感染症対策のため、校内で課題に取り組む研修やズームを活用してのオンライン研修への変更が数回あったものの、10回の総合教育センターでの研修を受講した。教科指導や生徒指導、特別活動、いじめや不登校への対応など、多岐にわたる基礎的、基本的な内容について学ぶことができた。同期採用となった17名の先生方とは、研修を通じて親交を深め、互いに支えあいながら研修を受けることができた。特に、同じ教科のもう1人の先生とは、授業の方法や構成について考え、意見を交換しあうことができた。よい仲間を得ることができたことに感謝している。

また、本校を会場として開催された授業実践研修では、加藤昌宏総合教育センター指導主事にご来校いただき、本校の多くの先生方にも参観していただくことができた。「鎌倉幕府が開かれたのは、いつか」という歴史研究者の間でも複数の意見が出されている課題をテーマとした授業を、素晴らしい生徒たちのお陰で、何とか終わられた。協議会では、参観された先生方からの忌憚のないご意見をいただき、協議で用いた模造紙は一生の宝物となっている。

1つの単元やテーマに何か月も没頭して1回の授業を作り上げていくことは、簡単にできるものではない。これからは、この経験を基に毎日の授業を作り上げられるように努力していきたい。さらなる授業力向上にも努めたい。

#### < 4 > 校外研修（高校教育課主催の研修）について

総合教育センターでの研修と同様に、新型コロナウイルス感染症対策のため、予定されていた5回の研修は変更を余儀なくされた。PA研修は中止となり、秋田明德館高等学校での授業研修は、校内で課題に取り組んでレポートを作成する研修に変更となった。

4月1日に秋田県庁第二庁舎での辞令交付式後に行われた教職基礎Ⅰでは、「どんな時にも教育に携わる人間だという自覚を持つ」「厳しさと優しさを持った魅力ある先生、自信と謙虚さを兼ね備えた信頼される教職員になってほしい」との講話が、心に残った。このような教員となることを目標に、いつまでも努力を続けていきたい。

10月に予定された秋田明德館高等学校での授業研修に代わる研修は、定時制通信制の学校の生徒が参加して行われる生活体験発表会の大会集録『鋼』を課題として、レポートを作成するものとなった。以前に勤務していた角館高等学校定時制の生徒の発表原稿も集録されており、その生徒の成長を感じることができた。教師と生徒が心を通わせ、生徒のための最善の支援は何かを考えることの重要性を、改めて認識できた。

1月に実施された大曲支援学校訪問では、特別支援学校の様子を学ぶことができた。児童生徒は、自分のやるべきことを理解した上で一生懸命に学習や作業に取り組み、挨拶も立派なものであった。また、教員の生徒一人ひとりの尊厳を尊重した接し方は、教育の原点であるように感じた。これからは、今まで以上に生徒の尊厳を尊重して接していけるようにしたい。

#### 【3】終わりに

1年間の初任者研修は、講師時代には経験できなかった貴重なものとなった。この研修で学んだことや考えたこと、感じたことを生かして、これからも研鑽に励んで教員生活を頑張っていきたい。

さて、末筆として、1年間の初任者研修を通じて「本当によかったな」と感じていることについて触れさせてもらう。それは、「人との出会いに恵まれた」ということである。

保育園からの親友とは同職する機会を得て、適切なアドバイスをもらいながら研修に取り組むことができた。相談しやすい親友と同職できたことは、本当に心強いものとなった。

高浜虚子の「春風や 鬨志いだきて 丘に立つ」との俳句を通じて、高校3年生の私を導いてくれた担任の先生とも同職することができた。同じ職に就いた時から「いつかは同職したい」と願いつつも実現できずにいたが、ついに実現することができたことは望外の喜びである。あの頃のように優しく見守ってもらえたことで、何とか研修をやり続けられたと感じている。

校長先生が同じ専門科目だったことも、本当によかった。経験豊富な先生の適切なお指導は、指導案の作成や授業での導入、発問の仕方などとても参考となり、日々の授業においても意識して取り組んでいる。校長先生が積み上げてこられたものには到底及ばないが、校長先生から託された「想い」を胸に刻みこんでおきたい。

大曲高校での初任者研修は、本当に人との出会いに恵まれた。素晴らしい先生方、事務職員の皆さんのお陰で、充実した初任者研修となった。この場を借りて、感謝を述べさせていただく。本当にありがとうございました。これからも、よろしくお願ひします。

教員として着実に成長を続け、生徒や保護者、地域の皆さんから信頼される教員となれるよう、今後も「学び続ける」姿勢を大事にして、人間としても成長していきたい。成長が止まりかけた場合は、いつでもこの文章を読み直し、初任者としての気持ちを思い出すこととしたい。

## 地理歴史科（日本史 B） 学習指導案

日 時 : 令和 3 年 10 月 12 日 (火) 3 校時  
クラス : 21R 選択者 23 名 (男 8 名、女 15 名)  
場 所 : 学 習 室 南 2 教 室  
指 導 者 : 教 諭 高 橋 賢 右

【1】単元名 第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 2 鎌倉幕府の成立

【2】使用教科書 『詳説 日本史 B』(山川出版社)

【3】単元の目標

- (1) 源平の争乱から鎌倉に幕府が開かれる過程に興味をもち、幕府が開かれた時期を意欲的に追究する。 <関心・意欲・態度>
- (2) 封建制度や公武二元支配について、資料を活用しながら、多面的・多角的に考察し、説明することができる。 <思考・判断・表現>
- (3) 鎌倉に幕府が開かれた地理的特徴を、地図を用いて、読み解くことができる。 <技能>
- (4) 源平の争乱から鎌倉に幕府が開かれるまでの政治的過程を、様々な資料を活用しながら、それぞれの歴史事象のつながりを捉えることによって、理解することができる。 <知識・理解>

【4】単元と生徒

(1) 単元観

院政期に始まった中世社会は、平氏の繁栄と滅亡を経て、源頼朝を中心とした武家政権の時代を迎えた。鎌倉幕府の仕組みが整えられていく中、京都の朝廷や貴族が一定の影響力をもち続けたため、政治・経済の両面において公武二元支配となった。ここに、鎌倉時代が始まるのである。

また、鎌倉時代から始まる「武士の世の中」は、その後も室町時代、安土・桃山時代を経て、江戸時代へとつながっていく。そうしたつながりを今後学習していく上でも、本単元の内容は重要であると考ええる。

(2) 生徒観

今回の授業クラスは、21R（理系クラス）の日本史選択者 23 名である。4 月に行ったオリエンテーションの際は、「日本史に興味・関心があって選択した」という積極的な意見は少なく、漠然とした中で日本史を選択した生徒が多かった。そのため、授業に生徒が積極的に参加できるよう、互いの意見交換をする場面などを適宜、設けている。現在では、少しずつであるが、授業への取り組みも前向きとなり、話し合いも活発になっている。今回の授業においても、生徒自身の興味を引き出せるような発問を提示し、生徒自身が活発に授業に参加できるように心掛けたい。

(3) 指導観

武家政権である鎌倉幕府の成立は、それまでの歴史との断絶によって成立したものではない。それまでの共通点や相違点を、様々な資料を活用して、生徒たちが気付くことができるように指導していくことで、生徒の興味・関心を引き出し、思考力や判断力を育てていきたい。

本時においては、「鎌倉に幕府が開かれたのは、いつか？」という課題から生徒の知識を揺さぶり、生徒同士がそれぞれの意見を共有して、互いの学びを深め合うことができるよう、適切な支援を行っていききたい。

【5】単元の指導計画（全 4 時間）

- (1) 源平の争乱・鎌倉幕府 3 時間（本時 2/3）
- (2) 幕府と朝廷 1 時間

次ページに続く

【6】単元の評価規準

A：関心・意欲・態度	B：思考・判断・表現	C：技能	D：知識・理解
源平の争乱から鎌倉に幕府が開かれる過程に興味をもち、幕府が開かれた時期を意欲的に追究している。	封建制度や公武二元支配について、資料を活用しながら、その特徴を説明している。	鎌倉に幕府が開かれた地理的特徴を、地図を用いて、読み解いている。	鎌倉幕府の成立に関する歴史的事象のつながりを理解し、知識として定着している。

【7】本時の計画

(1) 本時の目標 「幕府とは何か」という幕府の本質を考察した上で、鎌倉に幕府が開かれた時期について、他者と考えを共有しながら、根拠を示して、説明することができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	①平氏の滅亡や源頼朝の台頭など、前時までの学習内容を復習し、鎌倉時代の学習になっていることを理解する。 ②源頼朝によって鎌倉に幕府が開かれた時期については、諸説があることを理解する。 ③本時の目標と課題を確認する。	・生徒の知識を揺さぶるために、鎌倉幕府の成立に関する先行研究を提示する。	
<b>課題：鎌倉に幕府が開かれたのは、いつか？</b>			
展開 (25分)	④グループを作り、本時の課題を解決するために、「幕府とは何か」という幕府の本質について話し合う。 ⑤④の活動を基に、鎌倉に幕府が開かれた時期についてグループで話し合い、自分たちの考えをプリントにまとめる。 ⑥各グループの考えを、発表する。	・話し合いが活発になるように、前時までの学習プリントのみを参照させる。 ・生徒の様子を評価するために、アドバイスを与えながら机間指導を行う。 ・全体で考えを共有できるように、発表するグループのプリントを電子黒板に表示する。	A：グループでの活動に積極的に参加し、他者と考えを共有できる。(机間指導)
まとめ (15分)	⑦幕府の本質の捉え方により、鎌倉に幕府が開かれた時期については諸説があり、源頼朝が少しずつ影響力を強めていったことを理解する。 ⑧本時の課題についての自分の考えを、プリントに記入する。 ⑨次回の学習内容を確認する。	・次回以降の学習につなげるために、朝廷の影響についても説明する。 ・次回の学習内容を予告する。	B：本時の課題を、根拠を示して、説明できる。(プリント)

(3) 目指す生徒像

- ・授業に意欲的に取り組み、幕府が開かれた時期への自分の考えを持つことができる生徒
- ・他者と考えを共有しながら、幕府が開かれた時期を多面的・多角的に考察できる生徒

(4) 協議の視点 「主体的・対話的で深い学び」が実現できる、適切な内容の授業であったか。

【8】参考文献

- ・『歴史地理教育』第 815 号、第 816 号（歴史教育者協議会、2014 年 2 月、2014 年 3 月）

# 日本史 B 学習プリント

組 番 氏名

## 目標

「幕府とは何か」という幕府の本質を考察した上で、鎌倉に幕府が開かれた時期について、他者と考えを共有しながら、根拠を示して、説明することができる

## 課題

鎌倉に幕府が開かれたのは、いつか？

### 「幕府とは何か」について考えよう

自分の考え

グループの考え

### 「鎌倉に幕府が開かれたのは、いつか？」について考えよう

自分の考え

グループの考え

他のグループの発表をメモしよう

今日のまとめ

次回以降の学習に向けて

あなたは、鎌倉に幕府が開かれたのは、いつだと考えますか？根拠を示して、説明して下さい！

今日の授業を振り返って

- |                          |   |   |   |   |   |
|--------------------------|---|---|---|---|---|
| ①今日の授業内容を理解することができましたか？  | A | • | B | • | C |
| ②グループでの話し合いに進んで参加できましたか？ | A | • | B | • | C |
| ③「本時の目標」を達成することはできましたか？  | A | • | B | • | C |

令和3年度 A-3 初任者研修講座（高等学校）Ⅶ期

「授業実践研修」 分科会協議記録

実施日	10月12日（火）	学年・科目	2年生（理系）・日本史B
単元	第Ⅱ部 中世	第4章 中世社会の成立	2 鎌倉幕府の成立
分科会 参加者	加藤昌宏総合教育センター指導主事 近江谷正幸校長先生、下橋実教頭先生、伊藤康夫教頭先生 泉広宣、中村邦彦、高橋史、藤田理、戸嶋あきは、渡部栞、高橋賢右		
<p><b>【1】 授業者の感想・反省</b></p> <p>初任者研修の一番ともいえるべき本日の授業は、生徒の頑張りに助けられて、何とか終わることができた。「鎌倉幕府が開かれたのは、いつか」という、研究者の間でも複数の考え方があるものに、生徒たちは一生懸命に取り組んだ。その生徒を動かし、互いの学びを深めあうような支援ができていたのかなど、参観された先生方からの忌憚のないご意見をいただければ幸いである。</p> <p><b>【2】 参観者の感想・意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で生徒に提示された、作業時間の根拠は何であったのか。生徒の考える時間や、発表時間が適切であったのかを検討しなければならない。また、その時間内での到達目標が示されていると、日本史の学習に苦手意識のある生徒のグループも取り組みやすいのではないだろうか。</li> <li>・生徒たちがまとめたグループの意見を、タブレットで撮影して電子黒板に映していたが、必要なかったのではないか。電子黒板に映すことで、必要箇所を拡大して全員が見れるという利点もあるかもしれないが、黒板に貼った上で同じ意見をグループ分けする方がよかったと思う。また、タブレットと電子黒板を活用するのであれば、グループの意見を紙に書かせるのではなく、タブレットに入力することで全員が共有することができれば最高であった。</li> <li>・「鎌倉に幕府が開かれたのは、いつか？」という課題の前提として、幕府の本質を考えなければならない。その時、「鎌倉幕府の本質」なのか「幕府の本質なのか」が曖昧で、考えにくかったように感じている。生徒の思考の手助けとなるような補助発問があればよかったと考えている。また、最後に自分たちの意見やプリントの内容を振り返る時間があれば、生徒の学びがさらに深まったのではないだろうか。</li> </ul> <p><b>【3】 今後の課題、助言等</b></p> <p>今回の授業研修において、生徒の多様な考え方を引き出し、互いの学びを深めあうことができたかを検討すれば、1185年と1192年という2つの意見が出されたのはよかった。しかし、この2つの考え方以外には生徒の考えが及ばなかったと推測もできる。生徒の多様な考え方を引き出すためにも、前時までの授業が重要であり、こうしたことを意識して年間指導計画は作らなければならない。また、「幕府を開く側」の視点だけでなく、「幕府を認める側」の視点もあれば、多様な考え方を引き出したのではないだろうか。今後は、そうした点を意識して、授業力の向上に努めてもらいたい。</p>			

# 中堅教諭等資質向上研修を終えて

照井 幹夫

コロナ禍という特殊な環境の中、中堅教諭等資質向上研修も変化に対応しながら行われた。計画・準備及び実際の研修に携わられた方々への感謝の気持ちを忘れずに、教員としてこの研修を生かしていきたいと思う。

## 【選択研修】

秋田県立農業科学館で行わせていただいた。科学館では農産物をはじめとした植物、農村や郷土の歴史に関する展示物の他に、秋田県内で使われていた農機具をはじめとする農業・林業などの産業に関わるものや、衣類や食器などの当時の生活を知ることができるものが収蔵されていた。収蔵物には現在の農業には使われていないものも多く、学芸班の方に詳しく説明をいただいた。収蔵品の照合作業では主に鋏と鋸について寸法や角度を測定し、データベースの補足・確認作業の補助を行った。鋏そのものの種類の豊富さだけでも驚いたが、鋏の角度には地域によって規則性があることを教えていただいた。収蔵物をデータ化することで新たな価値が生まれることを知った。

また、学校や保育園と連携してセカンドスクールとしての活動もあり、小学生を対象としたスマート農業の説明を小学生の目線に合わせて行っていた。職員はそれぞれが担当する仕事をもっているが、必要に応じて共同で事業の運営にあたり、情報交換も密に行われていた。仕事内容は植物の管理などのフィールドワーク、講義、来場者の案内、収蔵物の整理など多岐に渡って行われており、幅広い年齢層が来館する環境でもあり、対応力の高さを感じた。絶えず来場者の観察、情報交換を行っており、それが生きているのだと思った。自らも今後、生徒の観察を通して、地域や年々変化する生徒の実態に合わせた対応力が必要であり身につけていきたい。

当初計画の日程が新型コロナウイルスの感染拡大があり、一旦中止となったが、再度の計画も快く引き受けて頂き、館長をはじめとした農業科学館の職員の方々には深く感謝している。

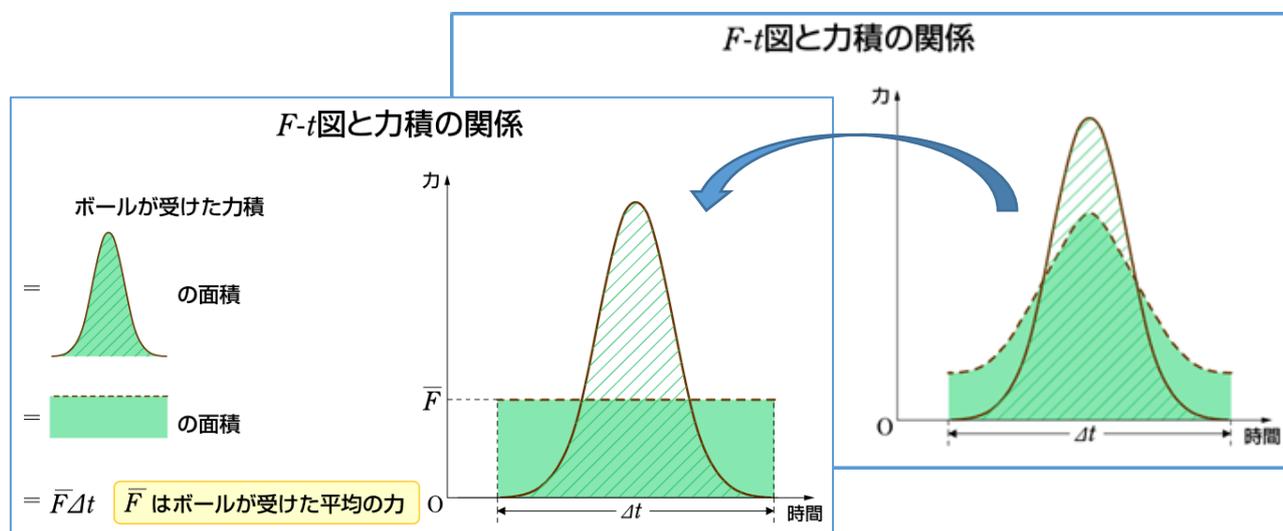
## 【特定課題研究】

### 1 研究の概要

担当する物理基礎・物理は授業進度が遅く、進学校でありながら受験までに教科書を終えるのが厳しい状況にある。プロジェクターとプリントで学習の効率化を図り、授業中における生徒の活動時間を確保する。

#### ① プロジェクターの使用

パソコンの画面をプロジェクターで投影し、教師の板書時間を省略する。また、アニメーションによってイメージをつかむ。



② プリントの配付

空欄補充等しながら教科書の内容を確認する授業用プリントと解答を書き込みできる問題プリントの2種類を配付する。

↓問題プリント

物理1-3-1(1/1)

**1. 運動量と力積**

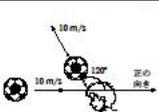
1. 運動量  
質量2.0kgの物体が真に向かって1.5m/sの速さで進んでいるときの、運動量の大きさと向きを求めよ。

2. 運動量と力積  
速さ1.0m/sで走っている質量2.0kgの物体に対し、進んでいる向きに2.5Nの大きさの力を0.40秒作用させたとする。このときの物体の速さは何m/sになるか。

3. 運動量と力積【改訂版 物理(物理313) 問14、改訂版 総合物理1(物理314) 問53】  
速さ40m/sで飛んできた、質量0.14kgのボールを、グラブで受け止めた。  
(1) ボールが受けた力積の大きさは何N・sか。  
(2) ボールが止まるまでのグラブとボールの接触時間が $2.0 \times 10^{-2}$ 秒であったとき、ボールがグラブに加える平均の力の大きさは何Nか。

4. 運動量と力積  
真向きに速さ20m/sで飛んできた質量0.15kgのボールをバットで打ったところ、ボールは同じ速さで別の向きにはねかえったとする。ボールのはねかえった向きが(1) 真向き、(2) 左向き のとき、ボールが受けた力積の大きさと向きを求めよ。

5. 運動量と力積  
正の向きに速さ10m/sで飛んできた質量0.40kgのソフトボールをベティンが捕るところ、ボールは正の向きに対し12°をなす向きに同じ速さではねかえったとする。このとき、ボールが受けた力積の大きさと、力積の向きが正の向きとなす角度を求めよ。



↓授業用プリント

第1編 力と運動 第3章 運動量の保存 物理1-3-1(1/1)

**1 運動量と力積**

**A. 運動量**

(1) ( ) : 運動の勢い(激しさ)を表す量の一つ。【質量×速度】[kg・m/s]

**運動量**

$$\vec{p} = m\vec{v} \quad (39)$$

$\vec{p}$  (kg・m/s) 運動量  
 $m$  (kg) 質量 (mass)  
 $\vec{v}$  (m/s) 速度 (velocity)

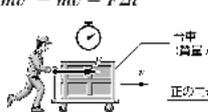


**B. 運動量と力積の関係**

① 直線運動における運動量と力積

(1) ( ) : 【力×力がはたらく時間】 $F\Delta t$  [N・s]

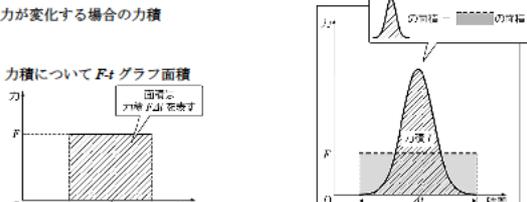
物体の運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しい

$$m\vec{v}' - m\vec{v} = F\Delta t$$


② 力が変化する場合の力積

力積について  $F-t$  グラフ面積

面積 = 力積  $F\Delta t$  を表す



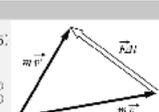
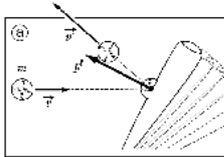
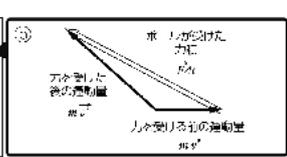
③ 平面運動における運動量と力積

**運動量と力積の関係**

$$m\vec{v}' - m\vec{v} = \vec{F}\Delta t \quad (45)$$

(運動量の変化) (力積)

$m$  (kg) 質量 (mass)  
 $m\vec{v}$  (kg・m/s) 変化前の運動量 (初速度)  
 $m\vec{v}'$  (kg・m/s) 変化後の運動量 (末速度)  
 $\vec{F}\Delta t$  (N・s) 力積 (力×作用した時間)

《成果》

アニメーションでの提示により授業内容を正確に伝えることができ、その上板書という教師の活動時間が削減され、その分を生徒が理解を深めるための活動時間に充てることができた。また、ぎりぎりではあったものの3年生の11月の2学期期末考査までに教科書の内容を概ね終えることができるほど進度を早めることができた。

《課題》

実験動画も充実していたが、実物実験が少なくなってしまう面白みの少ないものになってしまった。図をプリントに印刷してしまったため、生徒の描く機会を奪ってしまった。生徒自身が図を描き理解を深める習慣がつくようにプリントを工夫したい。コロナ禍が落ち着いたら、問題を教えあう活動も取り入れていきたい。

## 「物理基礎」理科学習指導案

日 時：令和3年9月2日（木） 3校時  
 場 所：秋田県立新屋高等学校 2年E組教室  
 対 象：2年E組（在籍16名）  
 教科書：物理基礎（第一学習社）  
 授業者：照井 幹夫

### 1 単元名

第I章 力と運動

第2節 力のはたらきとつりあい

### 2 単元の指導目標

- ・物体にさまざまな力のはたらくことを理解する。
- ・物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深める。
- ・作用・反作用の法則を扱い、つりあう2力との違いを理解する。
- ・摩擦力の特徴を理解し、それを含めた力のつりあいについて理解する。
- ・水圧と浮力の関係について理解する。

### 3 単元の指導計画

- 1 さまざまな力 (1時間)
- 2 力の合成・分解とつりあい (9時間) 本時 5/9

### 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
<p>・力のはたらくときの物体に及ぼす影響について関心を持ち、力のはたらきを物理的にとらえようとする。</p> <p>・物体が異なる方向に複数の力を受けるとき、その力のはたらきについて、物理的に考えようとする。</p>	<p>・重力、摩擦力、弾性力など、さまざまな力の特徴をとらえ、どのように力がおよぼされるかを考えることができる。</p> <p>・物体にはたらく力を、ベクトルを用いて合成、分解することができる。</p> <p>・物体の運動状態から、はたらく力を考えることができる。</p>	<p>・複数のばねはかりを用いて、物体に異なる方向の力を加えたとき、はたらく力に、平行四辺形の法則が成り立つことを確認する。</p> <p>・ばねはかりを用いて、空気中、水中のそれぞれのおもりの重さを測定し、浮力の大きさについて考察する。</p>	<p>・さまざまな力の特徴を理解し、空間を隔ててはたらく力についても理解する。</p> <p>・質量と重さの違いを理解し、重力、弾性力を計算する。</p> <p>・力の合成・分解、つりあいを理解する。</p> <p>・作用・反作用とつりあう2力との違いを理解する。</p>

### 5 単元と生徒

男子12名、女子4名、合計16名からなる授業である。生物選択メンバーと異なり、比較的、落ち着いた生徒達であるが、積極性に欠ける部分もある。成績上位層と下位層がはっきりと分かれており、基礎的な内容の定着に課題を残す生徒もいる。

中学校では、第1分野「(5) 運動とエネルギー」で、水圧と浮力について、第2分野「(4) 気象とその変化」で、圧力や大気圧について学習している。物体に接して働く力として浮力、関連して圧力を扱う。今回の内容は概ね中学の復習となる。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

浮力の大きさをばねばかりの示す目盛りの変化から、力のつりあいを用いて求めることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮力とは何か確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある浮力について挙げさせる。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばねばかりの示す目盛りの変化について考察する。</li> <li>・圧力について確認する。</li> <li>・大気圧について確認する。</li> <li>・水圧について確認する。</li> <li>・浮力について理解する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f0ff; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ばねばかりの目盛りの違いを論理的に説明しよう。(発問)                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的に考え説明ができるように考察させる。</li> <li>・式と単位を確認して、問36を解く。</li> <li>・問37を解答し、大気圧の大きさのイメージをもたせる。</li> <li>・水による圧力は深さに比例することを理解させる。</li> <li>・アルキメデスの原理から浮力を理解し、例題7、問39を解答させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力のつりあいを利用し、論理的に説明しているか。B</li> </ul>
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容を確認し、振り返りシートに記入させる。</li> </ul>	

A: 関心・意欲・態度 B: 思考・判断・表現 C: 観察・実験の技能 D: 知識・理解

# 中堅教諭等資質向上研修を終えて

菊池 喜晴

## 【選択研修】

竹半スポーツは、スポーツ用品の販売はもちろん、各企業の制服や介護関係用品の取り扱いなど、多岐にわたる商品を取り扱う地域に根ざした地元企業です。取引相手は主に学校関係になりますが、運動環境の改善に向けたコンサルティングの役割も果たしており、地域のスポーツ振興に対する貢献度の大きさを改めて実感しました。

顧客は学校単位から個人までさまざまですが、単に新商品の紹介をしたり、購入を勧めたりするのではなく、日常会話の中から現場で困っていることがないか聞き出し、様々な情報交換を通じて、顧客が気持ち良く運動環境を改善できるよう話し合いがもたれていました。また、社員の方々が持つ情報量にも驚かされました。話の中には、退職された先生方の逸話もあり、大変苦勞なされた様子もうかがえました。日頃から雑談を含めたコミュニケーションを重視するとともに、営業に回る前には顧客の大会結果等、情報収集を心がけているそうです。こうした地道できめ細かい営業努力の積み重ねが顧客の信頼を勝ち取り、よい結果を生み出しているのではないかと考えさせられました。

当初夏季休業中の予定でしたが、本校において新型コロナウイルス感染があり、一旦中止となりました。しかし、12月の多忙な時期に快く引き受けて頂き、深く感謝しております。

## 【特定課題研究】

### 1 研究の概要

体育授業において技能を指導する際、示範したものと本人の感覚の違いを示す時、口頭でアドバイスをするものの、なかなか伝わりにくいことがありました。映像を撮影し、実際の動きを確認することができれば技能の向上につながるのではないかと考えました。そこで、担当する選択授業において iPad 等のタブレット端末を用い自身の技能を即座に見ることができるようにして、フィードバックをより効率的に行えるように授業を実施しました。

### 2 研究概要

今回は1年生のバスケットボール選択授業で実施しました。ミニバスなどの経験者が数名いるものの、技能のレベルは高くありません。「レイアップシュートの習得」を授業の目標にして、レイアップシュートを指導する際に、シュート練習を iPad で撮影し、終わった後に映像を見ながら、フィードバックを行い、再度シュート練習をする流れで指導をしました。

### 2 成果と課題

#### 《成果》

実際に映像を見ることで、どのようなことがうまくいっていないかを生徒自身がはっきりと認識できたことは概ね成功だったと感じました。また、自分の動く姿を映像で見ることがないので、興味深いようでした。

#### 《課題》

今回は iPad 1 台での撮影だったので、フィードバックの際に大変効率が悪かった。生徒それぞれがタブレット端末を用い、映像の分析を行ったり、お互いに指導したりすることができれば、実際に体を動かして参加するだけでなく、違った形でのスポーツへの関わりを示すことができるのではないかと思います。また、電子黒板を活用し、より大きな映像で分かりやすく課題を共有できるなど、ICT機器を自分の授業で積極的に取り入れようという意識が高まりました。

## 保健体育科（保健）学習指導案

日 時 令和3年7月14日（水）1校時  
場 所 16R 教室  
対 象 16R（35名）  
指導者 菊池 喜晴

1 単元 (1) 現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防 飲酒と健康

2 単元目標 ・飲酒に関する様々な問題を理解し、自らにとって適切な行動を選択できる。

3 単元と生徒

(1) 単元観 喫煙や飲酒は生活習慣病の要因となり、健康に影響があり、本人だけでなく、家族、その周囲の人々、社会に対しても大きな影響を与える。また、「一気飲み」などによる若者の事故が後を絶たないことから正しい知識の普及、健全な価値観の育成などは社会の急務である。  
本単元において、生活習慣病の要因となる飲酒に関する様々な問題を、アルコールの薬理作用、生徒本人の体質などを踏まえて理解し、将来において生徒が健康を適切に管理していく能力を養わせたい。

(2) 生徒の実態 16R 商業科35名（男子11名、女子24名）  
女子に明るい生徒が多く、発表なども活発である。反面、雑談的な発言も多くなる場合がある。男子はおとなしいが、自分の意見をしっかりと発言することができる。  
生徒に活動の場を与えたり、日常生活と結びつけたりすることで、一人一人が考えを持って授業に取り組めるようにすることが必要である。

(3) 指導観 本単元は日常生活に関わる分野を多く含んでおり、いかにして生徒自身の生活に結びつけて考えさせるかが重要であると考えている。そのため、飲酒に関する様々な問題を理解することとともに、自己の体質や状況を踏まえた対処の仕方を考えさせることで、適切な意志決定・行動選択についても身につけさせたい。

4 単元の指導計画 生活習慣病と日常の生活行動・・・・・・・・・・1時間  
喫煙、飲酒と健康・・・・・・・・・・2時間（本時 1／2）  
薬物乱用と健康・・・・・・・・・・1時間  
感染症とその予防・・・・・・・・・・1時間

5 評価の観点

単元	A 意欲・関心・態度	B 思考・判断	C 知識・理解
現代社会と健康	・健康の保持増進に必要な事項に関して意欲的に学習している。	・健康を保持増進するための適切な意志決定や行動選択ができる。	・健康問題の解決に必要な知識を身につけている。
本時の評価の観点		・飲酒の問題等を踏まえ、適切な意志決定・行動選択ができる。	

6 本時のねらい ・飲酒による健康影響を理解し、適切な意志決定ができる。

7 本時の展開

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	1. 本時の説明	・本時の目標を確認する。 ・飲酒をするとどのようなようになるか考え、発表する。	・飲酒による行動の変化等に気付かせる。	
展開 35分	1. アルコールパッチテスト(1)	・アルコールパッチテストを実施する。	・エタノール、絆創膏を準備し、自分の上腕の内側に貼らせる。	
	2. アルコールの作用について	・アルコールの作用について理解する。	・導入における生徒の発表と関連させながら、アルコールの薬理作用について、理解させる。	
	3. アルコールパッチテスト(2)	・アルコールパッチテストの結果を確認する。	・アルコールパッチテストの結果を確認させる。 ・結果を踏まえ、どのような健康影響があるか考え、発表させる。	
	4. アルコールの健康影響について	・アルコールの健康影響を理解する。	・3の結果と関連させ、短時間の多量飲酒、長期間の多量飲酒の健康影響を考え、理解させる。 ・若年者、妊婦の飲酒による健康影響についても触れる。	
	5. 飲酒を勧められた時の対処	・親戚のおじさんに飲酒を勧められた場合を例にロールプレイングを行う。	・2人1組でロールプレイングを行わせ、生徒数人に発表させる。 ・机間指導を行い、つまずいている生徒へ指導を行う。 《つまずいている生徒に対する手立て》 ・何を話して良いか分からない生徒→隣の生徒との話を参考に考えさせる。 ・自分の主張がうまくできない生徒→自分の体質などを踏まえて考えさせる。	評価の観点：思考・判断 評価方法：ノート ・自己の体質等を考慮して、適切な意志決定・行動選択ができる。 A評価（良くできる）：相手を尊重しつつ、明確な主張ができる。 B評価（できる）：相手に明確な主張ができる。 (努力を要する生徒への支援)：適切な選択をするために必要な事項について考えさせる。
整理 5分	1. 本時のまとめ 2. 次時の確認	・本時のまとめをする。 ・次時の学習内容を知る。	・本時の活動で分からなかった部分があったか確認する。 ・次時に興味をもてるようにする。	

# 芸術科書道におけるタブレット活用の設計

芸術科 竹村 美範

キーワード：変容度、ポートフォリオ、クラッシー、タブレット、Google、YouTube、classroom

## 1 なぜ2枚目を書くのか

書道で1枚書き終わると、2枚目の白い紙を出すのはなぜか。授業中だから？先生に怒られるか？いやいや、そんな些末な理由ではない。

では、「書道ではどんな時が楽しいのか」。それは上達した時である。書道では書いたものは消すことができない。書きながらなかなかうまくできないところは「この次はここをこのように書こう」と自己評価をして次の目標を設定する。そして、2枚目の紙をだして、その目標をクリアしようと努力する。その上達度が目に見えると、一層書道への取り組みモチベーションがあがる。その記録にタブレットとクラッシーのポートフォリオを活用する。作品の記録はデジタルで保存した方が、実物を保存するよりもかなり容易であり、しかも劣化も散逸もしない。

## 2 変容度を重視

もちろん、書道では作品の完成度も大切ではあるが、本校芸術科書道ではそれよりも上達による「変容度」を大切にしている。以前から、上達した様子を記録するために「上達度チェックリスト」を活用して、その様子を可視化する取り組みをしていた。また、試書した作品を提出して保存しておき、清書して作品を提出するときには試書した作品を返却し清書の作品と一緒に綴じて提出している。そのため、清書の作品と試書した作品を比較することにより、自分の学習の成果を確認できるようにしていた。タブレットを使用すると、毎時間の学習の成果である作品を写真撮影し保存することができる。これにより、自分の上達度を視覚的に自分の手で保存できる。

## 3 授業での活用

### (1) タブレット配布前

#### ①クラッシーに記録は煩雑

授業で書いた作品は毎時間提出し、それを私がその都度全員分を写真に撮る。その写真のファイルネームをつけ直し、クラッシーのコンテンツボックスに保存する。生徒はそこからダウンロードして課題に貼り付けてポートフォリオに保存する。

#### ②YouTubeで範書を見る

本校では古典の中から自分の興味関心を重視し、好きな所を選んで臨書することになっている。その参考手本を書くときに、一緒に動画も撮影する。そして、その動画はYouTubeにアップする。

同じ文字を臨書しているのではないので、一斉に視聴はできない。そのため、筆路の研究ではYouTubeでの動画は1台のiPadを回して視聴していた。回覧するので視聴するのに時間がかかってしまう。

### (2) タブレット配布後

#### ①クラッシーに記録

授業で書いた作品は終了後の用具の片付けと平行して自己評価するとともに、タブレットで写真を撮りクラッシーの課題に添付してポートフォリオに保存する。課題は1單元ごとに1つとして、そこに清書までの6時間分の記録をできるようにしている。これによりその單元での変容を自分で確認することができる。また、最初課題をまとめておくことができるアルバムを配信しているので、課題はそこに保存する。

#### ②YouTubeで範書を見る

お手本は書かないという他校の先生もいるが、私は「お手本書く派」である。本校では自分で好きな文字を選んで臨書するので、それぞれに名前も書いてお手本を配布する。その時、一緒に動画も撮

影する。特に行書では範書の観察で筆路やリズムがわかりやすい。

### ③プリントを印刷しなくてもよい

授業では言語活動充実のために、文章読解の要素を含んだ学習を取り入れている。臨書する古典(国語分野の古典とはそれとは違い書道では「古人の書いた優れた筆跡」を「古典」という)の時代背景や制作意図の理解のために内容てんこ盛り資料を配布して、そこから必要な情報を読み取ることにしている。ネットを使ってタブレットで調べることができるので、このプリント資料の印刷が不要となった。

尚、調べたことは必ず引用元や情報源を明記させている。

### ④お手本を配信

漢字臨書の授業では一画一画をよく観察して書くために「リレー書道」を取り入れた。一画ごとによく観察して一画ごと書いて、「どこを太く書くのか」を学習テーマにした。

4人でグループになり「一画交替」で2字を書き、参考手本はclassroomに共有したドキュメントのリンクを貼り付けて、タブレットで配信し参考手本の印刷の手間を省いた。タブレットでは拡大したり、色を変えたりできるので印刷とは違った活用もできた。



▲筆路付きお手本配信

### ⑤字が上手になりたい

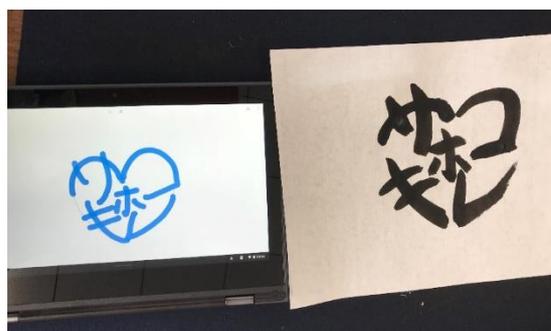
このような理由で書道を選択している生徒は多い。この場合、字は毛筆よりも硬筆に負うところが大きい。しかし、授業の振り返りを全部キーボードで入力したのでは手書き文字は上達しない。そこで、書いたプリントを写真に撮り添付して保存することにした。

### ⑥スライドを共有する

漢字仮名交じりの書のテーマは「秋田をPRする」とした。そこで、各自「秋田のよさ」を調べ、それをスライドにしてそれを共有しプレゼンした。出身地域の紹介などもありマイナーな秋田のよさを知ることができた。

### ⑦下書きはタブレットで

漢字仮名交じりの書の学習ではその導入で秋田米新品種「秋系 821」の名称「サキホコレ」の5文字をモチーフにして作品を制作した。そして、書いた作品は秋田おぼこ農業協同組合 大曲北支所「しゅしゅえっとまるしゅ」で展示することにした。作品に取り掛かった最初の授業時間では、ほとんどの生徒が直接半紙に書き始めた。しかし、私は何も言わなかったが下書きをする生徒がいた。ある生徒は配布しているプリントの裏に鉛筆で書き、ある生徒は半紙に筆でラフスケッチを書いていた。そして、ある生徒はタブレットの描画アプリで下書きをしていた。アプリだと簡単に消せるし丸ごと移動もできる。本校のタブレットはペンが使えないので、指では少し書きにくそうだ。



▲タブレットでの下書き

## 4 トラブルバスター

導入当初、一番多かったのはクラッシーに「ログインできない」であった。自分のスマホにはアプリをインストールしているので、IDやパスワードを入力しなくてもログインできる。しかし、WEBからのログインではそうはいかない。パスワードを忘れた生徒は二つの秘密の質問に答えて、パスワードを変更する方法がある。または、ベネッセオンラインのそれでもログインできる。

生徒はタブレット操作に不慣れなため「どうやるんですか」と質問するが、私の手元には実機がないので提示できない。そもそも、実機を使ったことがないので使い方すら分からない。

# Classi 活用実践報告（3年部数学科）

小田嶋 芳和

## ①実践内容（Webテストの活用）

GW 課題として Web テストを活用した。「テスト検索」を利用し、Classi に最初から用意されている問題から選択して配信した。

The screenshots illustrate the workflow in Classi:

- 1** Main menu with various tool icons.
- 2** Test search and selection screen with a table of available tests.
- 3** Test distribution configuration screen.
- 4** Test results summary screen.

タイトル	最終配信日	最終配信先
10分センター2次方程式1)1問	20210504	R.3 3年生
(数学)2次関数_ベネッセ総合学力テスト1年11月向けC...	20210503	R.3 3年生
(数学)政と式_ベネッセ総合学力テスト1年11月向けCl...	20210501	R.3 3年生
(数学)図形_基礎力診断1年スタート個別7Classiチャレ...	20210427	R.3 3年生

問題番号	平均正答率
問題1	72.7%
問題2	94.0%
問題3	70.2%
問題4	72.7%
問題5	65.1%
問題6	33.0%
問題7	45.3%

## ②目的

- ・ 模試の過去問の問題演習を難易度毎に挑戦して、弱点把握をさせる。
- ・ GW 中に Classi を開く機会を設けて、Web テストだけでなく学習記録やポートフォリオの活用機会を作る。

## ③実践した上での注意点

- ・ 事前に授業で、別の問題を配信して実際に練習した。
- ・ 配信するタイミングを伝えず、毎日 Classi を開いて確認するように指示した。

## ④感想

- ・ 模試の過去問を通して、実践的な課題を与えることができた。
- ・ 問題毎の正答率が瞬時に集計されているので、弱点把握がしやすい。生徒にも情報が常に残る。
- ・ 未提出者の把握がしやすい。
- ・ 予約配信や予め登録されている問題を使用することで、課題の準備がしやすい。
- ・ 印刷が不要。生徒も課題を無くさない。ペーパーレス（今回だけで A3 用紙が約 570 枚分の節約）。
- ・ 課題の準備や回収、チェックの時間を大幅に削減できた。また、その分の時間を生徒の分析や他の仕事の時間に充てることができた。

## 令和3年度 商業科の取り組み

商業科 佐々木 優子

令和3年度の商業科の1年間の取り組みについて紹介します。

- 全商1級検定3種目以上合格者 19名（取得率は秋田県1位）  
6種目取得1名、5種目取得2名、4種目取得6名、3種目取得10名（今年度卒業生33名中）

### ●講習会

- ・「今日から始める質的価値」講習会（5月）3年生全員参加  
講師：日本青年会議所東北地区秋田ブロック協議会副会長 山田雄太氏
- ・共通テスト簿記講習会（コロナ感染予防のため中止）
- ・全商情報処理1級講習会（9月）2年生13名参加  
講師：盛岡情報ビジネス専門学校 山口 裕氏
- ・日商簿記2級講習会（1月）2年生18名参加  
講師：仙台大原簿記情報公務員専門学校 鈴木 秀俊氏
- ・アプリ作成入門講習会（2月）1、2年生45名参加  
講師：盛岡情報ビジネス専門学校 山口 裕氏

### ●大会出場

- ・全国高等学校高等学校ワープロ競技大会県予選（5月）団体競技第4位
- ・全国高等学校ビジネス計算競技大会県予選（6月）団体競技第5位
- ・秋田県高等学校ワープロ新人競技大会（コロナ感染予防のため中止）
- ・東北6県高等学校ビジネス計算競技大会県予選（コロナ感染予防のため中止）

### ●イベントの参加

- ・夏のしゅしゅまるまつり（7月）3年生 13名参加
- ・秋の穂りフェア（コロナ感染拡大防止のため中止）
- ・ふるさと村パンスイーツまつり（3月、12月）3年生 8名参加



### ●商業科集会（5月、12月）

3年生の司会進行により1、2年生からの質問について3年生からアドバイスをした。1、2年生にとって今後の学校生活や進路実現に向けての意識付けができた。

### ●3年生課題研究

大曲青年会議所や地域企業と連携し、地域活性化活動や商業科のPR活動を7班に分かれて活動した。商品開発では、3種類の新商品を開発し校外や校内で販売した。また、大曲商工会議所主催で毎年11月に行われている「夢を語る会」と「工業製品展示会」の企業の認知度向上や地域の魅力を伝えるため、今年度新たな取り組みとして『ものづくり企業紹介動画』制作のライター役に2名が協力した。中学生への商業科PRでは、商業科紹介ホームページ更新の他、中学校へ学科紹介DVDを送付した。1月には研究活動の成果や反省点を商業科1、2年生と大曲青年会議所会員4名の出席をいただき、課題研究発表会を行った。

#### <今年度の研究活動>

- ・商品開発万能調味料班（主連携先：弁天）
- ・商品開発パン班（主連携先：ぽっぼ）
- ・起業班（主連携先：キリンの木）
- ・開発商品販売促進班（主連携先：グレン）
- ・商業科志願者倍率アップ班
- ・大仙散策マップ班（主連携先：大仙市役所）
- ・英語版観光マップ班（主連携先：仙北市役所）



# 授業互見月間について

研修部

## 1. はじめに

今年度の授業互見研修は、昨年度の「授業互見月間」を引き継いで実施された。従来行われていた「授業互見週間」より、じっくりと研修を行う時間を確保しやすいこと、そして新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、校内研修の精選を図るためである。今年は「授業互見月間」期間中に指導主事訪問、初任研授業実践研修があり、授業アンケートとも関連させて実施した。

## 2. 授業互見月間の概要

### (1) 実施日時

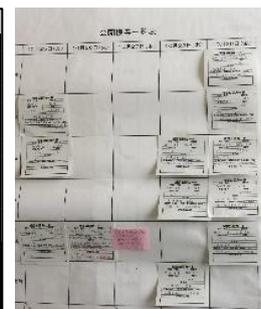
10月11日(月)～11月5日(金)

期間内に必ず授業を1回は公開し、2回は見学することとした。

### (2) 授業互見月間の流れ

- 1) 授業公開をする教員が、「公開授業一覧表」に「授業公開カード」を貼り付ける。
- 2) 授業見学を希望する教員が一覧表を確認し、見学に行く。
- 3) 見学を終えた教員は、「授業参観カード」に感想等を記入して、授業公開をした教員に渡す。

授業公開カード	
教科・科目	授業者
授業クラス	場所
単元名	
授業のねらい【目標や取り組みについて】	
参観者記入欄	



左：「授業公開カード」 右：「公開授業一覧表」  
このカードに教科・科目、授業のねらいなどを記入し、一覧表に貼付する。

## 3. 実施状況

### (1) 実施状況

公開授業実施率 92.5% 公開授業総数 50回

(国語5、地歴・公民8、数学8、理科10、保健体育6、芸術4、英語4、家庭1、商業4)

### (2) アンケート結果

授業互見月間終了後、次の内容でアンケートを実施し、21名の教員から回答が得られた。

	1	2	3	4
質問1 今回の授業互見月間によって、ご自身の授業への取り組みを見直す機会になりましたか。	14名	6名	1名	0名
質問2 テーマ『AT(アクティブタイム)の活用』に基づいた授業ができましたか。	2名	12名	6名	0名
質問3 授業参観し、ご自身の授業に参考となる部分がありましたか。	16名	5名	0名	0名
1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：どちらかといえばそう思わない 4：そう思わない				

## 4. まとめ

公開授業の実施率は92.5%となり、ここ数年で最も高くなった。アンケートによると、「授業に参考となる部分があった」とする回答が多かった。今年度は一人一台端末の運用が開始され、教員のICTの活用への関心が高まった時機であったが、実際にICTの活用に取り組んだ公開授業が見られたことも理由の一つと思われる。そして、指導主事訪問や他の校内研修と重なる時期に、授業アンケートと関連させた約一ヶ月という期間を設定したことで、例年以上に研修色の強い授業互見月間にする事ができたのではないだろうか。

一方『AT(アクティブタイム)の活用』に基づいた授業への取り組みについては、やや課題が残る結果となった。「ICTを活用した授業」や「3年生の演習の授業」でどうATを設定するかに難しさがあるのではないと思われる。今後も実施時期や実施方法の検討を重ねていく必要があるだろう。ウィズコロナ時代の大曲高校スタンダードの模索は、今後も続くかもしれないが、授業互見月間がその研究の場となることを期待したい。